

愛知文教大学の教育方針

使命・目的と教育目的

愛知文教大学は、教育基本法並びに学校教育法にのっとり、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、もって「質実有為で宗教的情操を身につけた真人の育成」という建学の精神を実現することを使命とする。

本学は、建学の精神を現代社会に適応させるべく、「急激に変化する現代社会を生き抜く人材の育成」と読み替え、グローバル化の波にあってもが容易に社会的弱者になりうる現代社会において、その没落を防ぎ、一生を自立的に生き抜く強い心とそれを助ける社会力を備えた人材を育成することを通じ、社会の発展に寄与することを目的とする。

本学人文学部人文学科は、上記の使命・目的を達成するため、自他の文化に関する幅広くかつ深い理解にもとづく人文知の総合的な育成、および実践英語、実践中国語の修得と母語の運用能力向上による真のコミュニケーション力の養成を教育目的とする。

卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

愛知文教大学(以下本学)は、足立学園創立者足立闇励(ぎんれい)の意志を、グローバル化する社会において一生を生き抜く強い心とそれを助ける社会力を養成するという現代的理念として継承している。

この理念に基づき、人文学部人文学科では、急激に変化する現代社会を生き抜いていく人材を育成するために、自文化及び異文化についての深い理解と実践的な言語運用能力の修得を通して、高いコミュニケーション力を獲得することを目的とした教育を実践している。

これは、意思伝達の道具としての言葉を社会や文化とのかかわりから問い直した「ことば」を教養教育の学修基盤として、その作用や多文化共生についての理解、それに基づく自己表現力や社会人基礎力、特定の分野に限定されない広い教養と視野を重視する教養教育とともに、「グローバル英語コース」、「中国語・中国文化コース」、「教員養成コース」、「人文総合コース」、「国際日本コース」という主専攻コースとして具体化されている。

これらのコースにおいては、卒業までに修得すべき内容として以下のものが求められ、所定の単位を得た学生は卒業が認定される。

- 1) 教養教育科目群の学修を通して、「ことば」についての理解と適切な運用能力、人間についての知識・見識、多文化共生に必要な知識・見識、基礎的な外国語運用能力、社会人としての基礎的な能力を修得する。
- 2) 「グローバル英語コース」、「中国語・中国文化コース」においては、英語および中国語による実践的コミュニケーション能力を修得し、英語圏・中国語圏に関する理解を深める。
- 3) 「教員養成コース」においては、教職および教科に関わる専門的知識や実践的な教育技能の獲得を通して、多様な学習者に対応できる指導力やコミュニケーション力を修得する。
- 4) 「人文総合コース」においては、日本文化を中心とし、比較文化および多文化共生に必要な基

礎知識を身につけ、各分野の調査・分析方法に習熟しつつ、それぞれの興味関心に従った課題を見つけ、自分の「ことば」で表現する能力を修得する。

- 5) 「国際日本コース」においては、実践的な日本語運用能力を身につけ、日本語・日本文化の理解を通して国際社会に貢献できる能力を修得する。
- 6) 「アカデミアゼミ」を通して、自ら設定したテーマについて主体的に研究・調査を進め、その成果を説得力をもって発信することのできる能力を修得する。

教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

人文学部人文学科では、教育目的を達成し学位を授与するために、言語による自己表現力や社会人基礎力、そして日本文化の理解を重視する教養教育と、「グローバル英語コース」、「中国語・中国文化コース」、「教員養成コース」、「人文総合コース」、「国際日本コース」という主専攻コースを中心としたカリキュラムを編成している。

- 1) 設置科目は、「教養教育科目群」および「専門教育科目群」の2つの科目群が中心となる。
- 2) 「教養教育科目群」は大学教育を受ける上での基礎知識やスキル、人文学部にふさわしい基礎的な教養、日本文化理解、社会および文化と言語の関係についての理解に基づく言語運用能力、基礎的な外国語運用能力、国際的なビジネスシーンにおける将来のキャリア形成と社会人としての基礎的な能力、人間と多文化共生についての知識・見識など、特定の分野に限定されない広い教養と視野を身につけるための科目群である。
- 3) 「専門教育科目群」では、「グローバル英語コース」、「中国語・中国文化コース」、「教員養成コース」、「人文総合コース」、「国際日本コース」のうち主専攻コースのカリキュラムに沿って、それぞれの学修に必要な基礎的な知識や能力を段階的に身につける。

さらに3年次からは、「アカデミアゼミ」を中心に、みずから課題を設定して専門的な研究を行ない、研究成果を適切な言語使用により発表することのできる能力を養う。

- 4) 「グローバル英語コース」においては、国際社会で活躍することを目指す学生が積極的に英語学修に取り組めるよう、レベル別少人数クラス、英語「で」学ぶ科目、多彩な留学プログラムなどによって実践的な英語の習得を目指す。

また、TOEICの受験を通じ、学修成果を客観的に測れるようにする。

- 5) 「中国語・中国文化コース」においては、入門・初級段階において、言語の基礎力の養成だけでなく、その「ことば」を育んだ歴史、文化、社会に関する理解を深める必修科目を学ぶ。

その上で、社会のニーズに直結した多彩なプログラムによって、より実践的で高度な中国語の修得を目指す。

一方、多様な留学プログラムや中国語母語話者との会話演習を通して、より実践的な中国語運用能力を養成する。

また、HSKの受験を学修成果可視化のツールとし、2年次までにHSK4級を、4年次春期までにHSK5級以上の取得を目指し、就職や進学に結びつける。

- 6) 「教員養成コース」においては、教職および教科に関わる専門的な知識と実践的な教育技能を、教育インターンシップなどの実習科目を通して体系的かつ系統的に積み上げることを軸にしながら学び、多様な学習者に対応できる指導力やコミュニケーション力を養い、教員として

求められる実践的な力の修得を目指す。

- 7) 「人文総合コース」においては、「共通分野」科目では日本文化を中軸とし、各領域における基礎知識を学び、学問的探究方法を身につける。

「表象」「言語」「歴史」の文化分野科目では、大衆文化の学術的価値、言語文化の特色、伝統文化の原典考察等に着目し、興味関心に従い、専門に関わる課題の修得を目指す。

自力で資料を収集・分析・考察し、その結果を論理的に構成し、自分の「ことば」で表現する能力を育成する。

- 8) 外国人留学生を対象とする「国際日本コース」では、1,2年次には日本語能力の向上と日本の社会や文化に関する基礎的な理解を深めるために同コース専用の科目を中心に学ぶ。

3,4年次には同コース専用の科目に加え、一般学生と共通の科目を履修することによって日本語能力試験 N1 レベルの修得を目指すとともに、日本に対する深い理解を持ち、知日派として自国と日本との架け橋となる、あるいは日本に関連する企業において活躍できる人材となるための能力の養成を図る。

- 9) 学修成果の評価においては、ディプロマ・ポリシーに沿った到達目標を定め、明確な成績評価の基準・方法を策定、学生に周知することによって、学生がみずから知識や理解の到達度を正確に確認できるようにする。

入学者の受入れに関する方針(アドミSSION・ポリシー)

本学の教育は、学生が現在「何が出来るか」ではなく、これから「何をしたいか」を探し追求していくことを重んじる。

そして急激に変化する現代社会を生き抜く人材の養成のために、日本及び外国文化についての深い理解と実践的な語学の修得を通して、高いコミュニケーション力を獲得することを目的とした教育を実践している。

この教育目標を十分に理解し、本学の教育に意欲的に取り組む者を求める。

本学の求める人材は次のような資質を持つ者である。

- ・ 学ぶ意欲を持ち、大学で修得した知識や技能を基礎力とし、他者を尊重しつつ社会で活躍し貢献していく希望を有する者。
- ・ 本学の教育理念と学修プログラムを理解し、それについて強い関心と意欲を有し、本学での学修活動に最後まで取り組む意欲を持つ者。
- ・ 専門に直結する分野に限らず、幅広い文化理解と教養を獲得するために、学修にまじめにかつ意欲的に取り組むとともに、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ姿勢を持つ者。
- ・ 常に将来を意識し、一步一步挑戦を重ねていく意欲を持つ者。
- ・ 入学者の判定は以下のような方針にもとづきます。

- ①一般選抜では、個別学力検査および大学入学共通テストの結果、またはその両方を組み合わせることによって評価する。なお、個別学力検査においては次の点を重視する。

国語:基礎的な日本語の読解力、表現力、論理的な思考力

外国語(英語):文法、語彙、イディオム、読解力を中心とした基礎的な英語運用能力

歴史科目:異文化理解および日本の伝統と文化を理解する基礎となる知識

数学:高等学校卒業レベルの基礎的な数学的知識と処理能力

小論文:論理的な思考力・表現力、社会のできごとに対する知識・問題関心・意欲・理解度

- ②学校推薦型選抜では、クラブやボランティア、資格取得など高等学校内外での種々の活動など学業以外の諸成果も重視し、筆記試験だけでは測ることのできない能力を多面的、総合的に評価するとともに、書類選考、小論文と面接試験で基礎的な日本語の表現力、論理的な思考力をみる。
- ③総合型選抜では、スポーツや芸術などの分野における活動など学業以外の諸成果も重視し、筆記試験だけでは測ることのできない能力を自主性・意欲を評価のポイントとして多面的、総合的に評価するとともに、書類選考、プレゼンテーションまたは小論文と面接試験によって基礎的な日本語の表現力、論理的な思考力をみる。
- ④国際日本コースにおいては、筆記試験と面接試験によって、本学での学修に必要な基礎的な日本語力を評価する。
- ⑤特別選抜(編・転入学入試、社会人入試、生涯学習コース入試)では、小論文または面接試験、あるいはその両方を組み合わせることによって基礎的な日本語の表現力、論理的な思考力をみるとともに、出身校での単位修得状況や社会人としての実績や経験にもとづき、入学後の学修に必要な知識・能力の有無を判定する。

学修成果の評価に関する方針(アセスメント・ポリシー)

愛知文教大学では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーに もとづき、機関(大学)レベル、教育課程(学部・学科)レベル、科目レベルにおいて、学修成果を多角的に測定・把握して可視化することによって検証し、教育改善に生かす。

検証は以下の方法により行ない、検証結果は個人情報保護に十分に留意しながら学生、教職員関係者および社会に対して公表するとともに、検証結果を活用してPDCAサイクルを十分に機能させることにより、教育の内部質保証を実現していく。

- 1) 機関(大学)レベル:入試選抜および入学から卒業までの期間における学修成果の達成状況を検証する。
- 2) 教育課程(学部・学科)レベル:学部・学科における学修成果の達成状況を検証する。
- 3) 科目レベル:個々の科目における学修成果の達成状況を検証する。

a. アセスメントのレベル、方法、指標、三つのポリシーとの係

	入学時(アドミッション・ポリシーを満たす人材であるかどうか)	在学時(カリキュラム・ポリシーに則って学修が行なわれているかどうか)	卒業時・卒業後(ディプロマ・ポリシーを満たす人材になったかどうか)
機 関 レ ベル	・入学試験 [入試広報センター] ・調査書等の記載内容 [入試広報センター] ・面接、志願理由書等 [入試広報センター] ・新入生に対する意識調査 [入試広報センター] ・学長昼食会 [教学部]	・GPA [教学部] ・成績状況および単位修得状況 [教学部] ・休学・退学・除籍率 [教学部] ・留学状況 [グローバル教育センター] ・課外活動状況 [教学部] ・在学生アンケート(満足度調査) [総合企画部] ・図書館利用状況 [図書館] ・保護者意向調査 [学長室]	・学位取得状況 [教学部] ・卒業時アンケート(満足度調査) [総合企画部] ・卒業生アンケート [総務部] ・進路状況 [キャリアセンター] ・就職先アンケート [キャリアセンター]
教 育 課 程 レ ベル	・入学試験 [入試広報センター] ・調査書等の記載内容 [入試広報センター] ・面接、志願理由書等 [入試広報センター] ・新入生に対する意識調査 [入試広報センター] ・入学前教育取り組み状況 [教学部] ・ジェネリックスキル測定・育成プログラム [総合企画部]	- GPA [教学部] ・成績状況および単位修得状況 [教学部] - TOEIC/HSK/日本語能力試験成績 [教学部] ・在学生アンケート(DP 達成状況調査) [総合企画部] ・学修ポートフォリオ [教学部] ・ジェネリックスキル測定・育成プログラム [総合企画部]	・単位修得状況 [教学部] ・卒業論文・卒業研究 [教学部] ・卒業時アンケート(DP 達成状況調査) [総合企画部] ・卒業生アンケート [総務部] ・進路状況 [キャリアセンター] ・資格取得状況 [キャリアセンター] ・TOEIC/HSK/日本語能力試験成績 [教学部]

科目 レベル	•プレイスメントテスト (英語) [教学部]	•成績評価 [教学部] •出席状況 [教学部] •授業調査アンケート [FD 委員会] •学修ポートフォリオ [教学部]	
-----------	--	---	--

ｂ. 個々の授業科目におけるアセスメントの方針

1. 個々の授業科目の成績評価は、愛知文教大学人文学部履修規程第4章「試験、成績評価および単位の修得」の規定に則り、公正かつ厳格に行う。
2. 6段階評価で成績評価を行なう科目の成績評価基準は、以下のように運用する。

可否	評価	成績評価基準	GP*	評価内容
合格	S	100—90 点	4	学修目標に到達し、特に優れた成果を収めた
	A	89～80 点	3	学修目標に到達し、優れた成果を収めた
	B	79～70 点	2	学修目標におおむねに到達し、標準的な成果を収めた
	C	69—60 点	1	学修目標に到達する最低限の成果を収めた
不合格	D	59—40 点	0	学修目標に到達しておらず、不合格だが再試験受験可
	E	39—0 点	0	学修目標に到達しておらず、不合格で再試験受験不可
未受験	X		0	定期試験未受験のため成績評価対象外

* GP： GPA 算出に用いるグレードポイント(Grade Point)

3. 個々の授業科目の成績評価方法・基準はシラバスに明記し平準化に努める。
4. 同一の必修・選択科目が複数クラス開講される場合、全クラス統一の成績評価方法・基準を取り入れる。
5. 当該学期の GPA が 1.0 未満の場合には、個別指導を実施します。教務課から本人に注意・指導を与えるとともに、保護者にも通知する。さらに必要に応じ、学長ないしは学部長が本人および保護者と面談する。

1. 大学院の研究科、専攻課程及び研究領域

愛知文教大学大学院には国際文化研究科国際文化専攻修士課程が設置されている。

院生は「研究指導（東アジア文化）」、「研究指導（南アジア文化）」、「研究指導（日本文化）」という3つの研究指導科目のうちから自身が研究する領域に相応するものひとつを選択し研究を行う。

2. 大学院国際文化研究科の教育について

2-1. 使命・目的、教育目的

大学院国際文化研究科では使命・目的、教育目的が次のように定められている。

大学院国際文化研究科（修士課程）の使命・目的、教育目的（大学院学則第1条より）

愛知文教大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、文化の進展に寄与すること、並びに「質実有為で宗教的情操を身につけた真人の育成」という建学の精神を現代社会に適応させるべく、平等性、双方向性の視点で異文化を理解し多文化共生社会において活躍する真の国際人を養成し、急激に変化する現代社会を生き抜く人材を育成して社会に貢献することを使命・目的とする。

大学院国際文化研究科は使命・目的の達成のため、比較文化的視点、多文化共生的視点を基礎として広くアジア及び日本の文化を理解する高度な能力を持ち、今日の国際化、複雑化する社会の要請に応じることのできる人材を育成することを教育目的とする。

2-2. 大学院国際文化研究科（修士課程）の教育方針

課程修了認定・学位授与の方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針が次のように定めている。

2-2-1. 課程修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

愛知文教大学国際文化研究科は、平等性、双方向性の視点で異文化を理解し多文化共生社会において活躍する真の国際人を養成し、急激に変化する現代社会を生き抜く人材を育成して社会に貢献することを使命・目的とし、その達成を目指して教育課程を編成しています。この人材育成目標をふまえ、本研究科では、教育課程を通じて以下の事項を満たした者に対して学位を授与する。

- 1) 本研究科に原則として2年間在学し、修了に必要な所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格する。
- 2) 専門とする分野において、先行研究、文献及び調査データ等各種資料を適切に用いて研究者として自立した研究活動を行う能力を有する。
- 3) 比較文化的視点、多文化共生的視点を基礎として広くアジア及び日本の文化を理解する高度で専門的な知識を持ち、専門性を要する職業業務を遂行する能力を有する。

2-2-2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

愛知文教大学国際文化研究科では、その使命・目的を達成するために、比較文化的視点、多文

化共生的視点を基礎として広くアジア及び日本の文化を理解する高度な能力を持ち、今日の国際化、複雑化する社会の要請に応じることのできる人材を育成することという教育目的を掲げ、以下のような教育課程を編成している。

- 1) 「研究指導」においては、東アジア文化、南アジア文化及び日本文化を主たる領域とした研究指導をそれぞれ設置し、研究指導と論文作成指導を通して研究者として自立した研究活動を行う能力を養成する。
- 2) 「研究基礎科目」においては、研究倫理・方法を学ぶとともに異文化理解・多文化共生的視点を獲得し、研究の基礎となる知識・能力と社会において活躍する国際人としての能力を養成する。
- 3) 「言語・文化研究科目」においては、演習や講読、講義により学生それぞれの研究主題に関する専門的知識を育成するとともに、比較文化的視点をも獲得する。
- 4) 「関連科目」においては、自己の研究主題に関連する主題を広く学び、文化の多様相に関する理解を培う。
- 5) 修士論文は、研究指導教員の指導を受け、中間発表会での報告を経て提出し、課程修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に沿って策定され周知された基準にもとづき審査委員と委員会が審査評価する。
- 6) 学修研究成果の評価においては、課程修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った到達目標を定め、成績評価の基準・方法を策定し学生に周知する。

2-2-3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

愛知文教大学大学院国際文化研究科は、比較文化的視点、多文化共生的視点を基礎として広くアジア及び日本の文化を理解する高度な能力を持ち、今日の国際化、複雑化する社会の要請に応じることのできる人材を育成することという教育目的を達成するために、入学試験を実施して次のような人材を求める。

- 1) 学部で修得した知識を基礎として、東アジア文化、南アジア文化、日本文化の研究を行い、多様な文化と価値観を理解して国際化、複雑化する社会の諸課題に取り組むことに強い意欲を持つ学生。
- 2) 人文科学の専門領域に関する知識を幅広く習得し、発展性のあるテーマを自らで発見し、高い専門性の上に立った研究を行う能力を開発しようとする学生。

Ⅱ. 教育課程の履修

1. 設置科目と修了要件

設置科目

大学院国際文化研究科国際文化専攻修士課程の教育課程は、研究指導、研究基礎科目、言語・文化研究科目、関連科目の4分類から編成され、標準2年間の学修で修了可能なように構成されている。

設置される授業科目および単位数は、次の表のとおり。授業は学期ごとに15回行われる。

授 業 科 目		配当年次	単位数又は時間数		履修方法及び修了要件	
			必修	選択		
研究指導	研究指導(東アジア文化)A	1		2	学生自身の研究領域に対応した研究指導 4 科目 8 単位を選択必修。 秋期入学者については、「研究指導…B」および「同C」を 1 年次配当、「同D」および「同A」を 2 年次配当とする。	
	研究指導(東アジア文化)B	1		2		
	研究指導(東アジア文化)C	2		2		
	研究指導(東アジア文化)D	2		2		
	研究指導(南アジア文化)A	1		2		
	研究指導(南アジア文化)B	1		2		
	研究指導(南アジア文化)C	2		2		
	研究指導(南アジア文化)D	2		2		
	研究指導(日本文化)A	1		2		
	研究指導(日本文化)B	1		2		
	研究指導(日本文化)C	2		2		
	研究指導(日本文化)D	2		2		
研究基礎科目	研究倫理・方法論	1		2	一般学生必修	研究基礎科目は必修 5 科目 10 単位を履修。
	研究倫理・方法論(留学生)	1		2	留学生必修	
	異文化理解基礎論	1	2			
	多文化共生論	1	2			
	多元文化社会政策論	2	2			
	多元文化社会教育論	2	2			
言語・文化研究科目	アジア社会文化研究 1	1・2		2	言語・文化研究科目は、学生が選択した研究指導に応じて定められた 3 科目 6 単位以上を選択必修(注 1)。	
	アジア社会生成論	1・2		2		
	アジア社会文化研究 2	1・2		2		
	アジア宗教文化研究	1・2		2		
	日本歴史文化研究	1・2		2		
	日本文学研究	1・2		2		
	比較文学文化論 A	2		2		
	比較文学文化論 B	2		2		
関連科目	中国文学研究	1・2		2	3 科目 6 単位以上を選択して履修。	
	中国歴史文化論	1・2		2		
	日本歴史文化論	1・2		2		
	日本近代文学研究	1・2		2		
	日本現代文学研究	1・2		2		
	南アジア歴史文化論	1・2		2		
	イスラーム文化論	1・2		2		
	東南アジア文化論	1・2		2		

日中翻訳文化論	1・2		2	
日本語教育研究	1・2		2	
日本語教育方法研究	1・2		2	

(注1) 言語・文化研究科目の選択は次のとおりです。

「研究指導（東アジア文化）」を履修する学生

「アジア社会文化研究 1」、「アジア社会生成論」、「アジア宗教文化研究」、「日本歴史文化研究」、「比較文学文化論 A」のうちから、必ず「比較文学文化論 A」2 単位を含めて、合計 3 科目 6 単位以上を選択必修。

「研究指導（南アジア文化）」を履修する学生

「アジア宗教文化研究」、「アジア社会文化研究 2」、「アジア社会文化研究 1」、「アジア社会生成論」、「比較文学文化論 B」のうちから、必ず「比較文学文化論 B」2 単位を含めて、合計 3 科目 6 単位以上を選択必修。

「研究指導（日本文化）」を履修する学生

「日本歴史文化研究」、「日本文学研究」、「アジア社会生成論」、「比較文学文化論 A」、「比較文学文化論 B」のうちから、必ず「比較文学文化論 A」または「比較文学文化論 B」のいずれか 1 科目 2 単位を含めて、合計 3 科目 6 単位以上を選択必修。

修了要件

修了するためには、東アジア文化・南アジア文化・日本文化のうちから自分が選択した領域の「研究指導」から必修 4 科目 8 単位、研究基礎科目の必修 5 科目 10 単位、自分が選択した研究領域に応じて定められた言語・文化研究科目から選択必修 3 科目 6 単位以上、関連科目から 3 科目 6 単位以上を修得し、合計 30 単位以上を修得する。その上で修士論文を作成し、大学院が行う修士論文の審査に合格することにより、修士課程を修了することが出来る。なお、修了するためには 2 年間以上在学しなければならない。また、1 年次に 16 単位以上を修得していないと 2 年次に修士論文を提出することができない。

2. 科目編成の特色

科目編成の特色

大学院の科目は、「比較文化的視点、多文化共生的視点を基礎として広くアジア及び日本の文化を理解する高度な能力を持ち、今日の国際化、複雑化する社会の要請に応じることのできる人材を育成する」という教育目的を達成するために編成される。それぞれの科目群の特色は次のとおり。

①研究指導では、院生の入学に際して大学院国際文化研究科会議（以下「研究科会議」という。）で決定された指導教員が、院生の研究上の指導に当たります。指導の具体的な内容は以下のようになる。

ア 院生の履修に関する指導。

イ 研究主題設定の指導及び研究能力を向上させる学修指導。

ウ 修士論文の作成指導。

また、研究指導においては、院生の学修研究テーマに応じて指導教員が課題提出を課したり、口頭での試問を課したりすることもある。

②研究基礎科目は、研究の基盤となる能力や研究のための基本的視点を獲得する科目群。

③言語・文化研究科目は、学生各自の研究領域についての専門的な知識や、比較文化的視点を獲得するための科目群。選択して履修すべき科目は学生が選択した研究指導に応じて指定される。

④関連科目は、学生自身の専門分野に関連する領域、あるいは専門分野以外の領域での研究などについて知識を深める科目群。

3. 科目履修と研究指導

3-1. 科目履修

院生は、入学時に希望した研究領域に基づき研究科会議で決定された研究指導担当教員の指導のもと、履修科目を決定する。学生は履修しようとする科目について、指定された期間に履修登録をしなければならない。また、履修登録の変更取り消しは、指定された履修登録変更期間に行わなければならない。大学院の規則により、1年次に16単位以上を修得していないと2年次に修士論文を提出することができない。1年次の履修登録の際には十分注意する。

科目履修は、上掲「1. 設置科目と修了要件」の記述にしたがって行う。それぞれの研究領域での最小限の履修モデルは次のとおり。

		東アジア文化	南アジア文化	日本文化
1 年 次 春 期	研究指導	研究指導(東アジア文化)A[必]	研究指導(南アジア文化)A[必]	研究指導(日本文化)A[必]
	研究基礎	研究倫理・方法論[一般必] 異文化理解基礎論[必]	研究倫理・方法論[一般必] 異文化理解基礎論[必]	研究倫理・方法論[一般必] 異文化理解基礎論[必]
	言語・文化	アジア社会文化研究1[選必]	アジア社会文化研究2[選必]	日本歴史文化研究[選必]
	関連	中国文学研究 日中翻訳文化論	南アジア歴史文化論 東南アジア文化論	日本近代文学研究
1 年 次 秋 期	研究指導	研究指導(東アジア文化)B[必]	研究指導(南アジア文化)B[必]	研究指導(日本文化)B[必]
	研究基礎	研究倫理・方法論(留学生)[留必] 多文化共生論[必]	研究倫理・方法論(留学生)[留必] 多文化共生論[必]	研究倫理・方法論(留学生)[留必] 多文化共生論[必]
	言語・文化	アジア社会生成論[選必]	アジア宗教文化研究[選必]	日本文学研究[選必]
	関連	中国歴史文化論	イスラーム文化論	日本現代文学研究 日本歴史文化論
2 年 次 春 期	研究指導	研究指導(東アジア文化)C[必]	研究指導(南アジア文化)C[必]	研究指導(日本文化)C[必]
	研究基礎	多元文化社会政策論[必]	多元文化社会政策論[必]	多元文化社会政策論[必]
	言語・文化	比較文学文化論A[選必]		
	関連	〈留学生〉日本語教育研究		〈留学生〉日本語教育研究
2 年 次 秋 期	研究指導	研究指導(東アジア文化)D[必]	研究指導(南アジア文化)D[必]	研究指導(日本文化)D[必]
	研究基礎	多元文化社会教育論[必]	多元文化社会教育論[必]	多元文化社会教育論[必]
	言語・文化		比較文学文化論B[選必]	比較文学文化論B[選必]
	関連	〈留学生〉日本語教育方法研究		〈留学生〉日本語教育方法研究

秋期入学者は、B、C、D、Aの順序で「研究指導」を履修する。

3-2. 研究指導

3-2-1. 指導教員

院生は、東アジア文化・南アジア文化・日本文化の3つの研究領域に応じて入学時に研究科会議で決定された指導教員の研究指導を継続的に受ける。指導教員は、院生の履修科目の選択を指導し、随時与える課題やその点検を通じて研究意欲の増進を図るとともに、修士論文の作成を指導する。また、院生の学修・研究上必要があると認めた場合、学部で開設されている授業科目の聴講を命ずることもある。

3-2-2. 研究主題

院生は、出願時ならびに入学後に、希望する研究主題と内容の表明を求められるが、しかし、自身の最終的な研究対象と研究主題、修士論文の題目等は、その後の指導教員との対話を通じて、徐々に明確化していく。指導教員は、研究成果が期待できないと判断される場合、研究対象や主題題の変更を提案することもある。院生は、この点を予め理解しておかなければならない。

修士論文を作成する年度には、まず修士論文題目届を、指導教員と相談して提出する。この届には院生と指導教員の押印が必要である。その後に題目を少しでも変更する場合には、指導教員と相談して修士論文題目変更届を提出しなければならない。

3-2-3. コースコーディネーター

指導教員とは別に、各院生は研究科会議が指定するコースコーディネーター教員の指導も受ける。コースコーディネーターとは、大学院生に対し学修と研究および修士論文作成についての補佐と助言を行うよう研究科会議において指定された教員である。大学院研究科長及び指導教員と協議連携しながら、院生の科目履修に関する助言と指導、指導教員の指示にもとづく院生の研究と論文作成に関する補助的な研究指導、文章作成指導と補佐、その他院生の学修、研究、生活に関する事項についての助言などを行う。

院生には、定期的にコースコーディネーターと面談して研究の進行状況などを報告し、助言を受けることが求められる。指導教員が指示する場合には、コースコーディネーターの助言と指導をも受けて修士論文を作成しなければならない。

3-3. 単位修得と成績評価

3-3-1. 単位修得の条件

履修登録した科目の単位を修得するためには、原則として当該年度の授業料等学納金を納入し、授業実施時間数の3分の2以上出席し、かつ、定期試験等に基づく成績評価により合格しなければならない。当該年度の学納金が未納の場合（所定の手続きに則り延納・分納を願い出た場合も含む）には定期試験を受験することができず、成績評価の対象になりませんので、注意する。なお、大学院においては、事情により公欠とされた場合でも出席としては数えられないので、欠席と公欠の合計が授業実施時間数の3分の1を超えないよう注意する。

3-3-2. 成績評価

成績評価は、定期試験の成績及び学期の始めに科目担当教員が指定した評価基準に基づく成績判定により行われ、これにより科目の単位が与えられる。成績は、素点80点以上がA、79～70点B、69～60点がC、59～40点がD、40点未満がE、未受験及び失格がXという基準で評価され、

A(80 点以上)・**B**(70 点以上)・**C**(60 点以上)が合格となる。